

第2回世界社会開発サミット
大場国際協力局審議官によるステートメント
(2025年11月6日(木)、於：カタール・ドーハ)

御列席の皆様、

まず始めに、アントニオ・グテーレス国連事務総長のイニシアティブに対し、心より敬意を表したいと思います。今から30年前の1995年、世界の指導者たちはコペンハーゲンにおいて「人を開発の中心に据える」という理念を掲げ、その実現に向けた取組を進めてきました。この理念は、持続可能な開発目標（SDGs）にも引き継がれています。しかしながら、SDGsの達成期限である2030年まで残された時間は限られており、社会的格差や紛争、気候変動など、様々な不安定要因が複雑に絡み合っております。

今こそ、私たちは原点に立ち返り、「誰一人取り残さない」という理念を実現しなければならないと考えます。私たちは、分断と対立を乗り越え、共通の目標に向けて多国間主義のもとで協調すべきです。SDGsの達成に向けた連帯と協力が、今まさに求められているのです。

社会開発に焦点を当てるこの機会に、今一度、国連憲章でも謳われているとおり、人間の尊厳を守るという初心に立ち返るべきです。長年日本が重視してきた「人間の安全保障」は、個人に着目し、人間の尊厳を守る理念であり、SDGsの核である「誰一人取り残さない」の基礎にもなりました。全ての人間の尊厳が守られる社会を実現すべく、人間の安全保障を社会開発に通底する理念として据えることが重要ではないでしょうか。

本年7月、日本はSDGsに関する自発的国家レビューを発表しました。この報告で強調した点ですが、日本は、少子高齢化、災害、地域活性化など、他国に先駆けて多様な社会課題に直面してきた「課題先進国」であり、これら社会課題を国内の成長のエンジンとしてきました。また、これらの経験・知見を生かしつつ、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進、仙台防災枠組に沿った災害リスク軽減の取組の実施、教育を通じた人づくりなどを行ってきました。

日本は、8月には横浜で第9回アフリカ開発会議を開催し、先月無事に大阪・関西万博の閉幕を迎えましたが、こうした機会も捉え、各国から学び、各国と知見・経験を共有し合いました。また、新たに就任した高市総理は、「自由で開かれたインド太平洋」を外交の柱として引き続き力強く推進し、時代に合わせて進化させていくとともに、そのビジョンの下で、基本的価値を共有する同志国やグローバルサウス諸国との連携強化に取り組む方針を表明しました。今後も、各国と経験・知見を共有しつつ、共創（co-creation）を通じ、国際社会における開発・社会課題に取り組んでいきます。

日本は、人間の安全保障の理念の下、多国間主義を堅持し、各国との連帯と協力を一層強化していく決意です。

ご清聴ありがとうございました。

（了）